

今月は「「非行」と向き合う親たちの会 あめあがりの会」を紹介します。平成8年11月、我が子の非行で悩んでいる親と非行問題の専門家、司法関係者が作った自助グループです。毎月の例会で悩みを出し合うほか、定期発行の通信で交流し、学習会やセミナーなどを開いて子育てや教育、思春期のさまざまな問題について学び合い、支え合っています。設立から26年を数えるあめあがりの会について、春野すみれ代表にお話を伺いました。

あめあがりの会インタビュー（令和4年10月7日）

● あめあがりの会の活動の目的と設立のきっかけ

あめあがりの会の目的は、親たちが本音を出して語り合い、学び合い、それを通して、子どもと子どもの「非行」に正面から向き合う勇気と力をそれぞれが手にすることです。

きっかけは、うちの娘が中学2年の時に気になる行動をし始めたことでした。私は慌てふためいてあちこちに相談したのですが、どこへ行っても「親がもうちょっとしっかりしなさい」と言われるばかり。毎日がこんなにも苦しくて、非行をしている子どもの親は一体どうやって死なずに生きているのか、ご飯を食べているのか、引越しや転職をしているのかなど、知りたくてたまりませんでした。

非行の親の会を作りませんかと呼びかけたいけれど、誰にどうやって発信すればいいのかも分からず、おそろおそろ教育評論家の能重真作先生¹⁾に相談したら、「他にも悩んでいる人はいるはずだから」と、元家庭裁判所調査官の浅川道雄先生²⁾を紹介してくださいました。あめあがりの会の発足メンバーは、能重先生、浅川先生、能重先生に相談していたお母さんと私の4人でした。

当時は、自助グループというと被害者の側面の強い団体が多くありましたが、非行のある子の親は「迷惑をかけてごめんなさい」という立場です。私は、これ以上他人に責められたら立ってられないような気持ちでしたので、「非行のある子の親の自助グループ」に対する世間の反応がとても心配でした。でも、マスコミからも「日本もこういう時代になったのか」と好意的に受け止めていただき、報道を目にした全国の方たちから連絡をいただきました。今は、全国各地に、30か所ほどの親の会が誕生しています。

この会をやってきて思うのは、非行はどここの家庭にも起こり得るということです。みんな普通の人で、一生懸命我が子に愛情をかけてきたのに、どういうわけか子どもは非行に走って、周囲には「非行に走った子どもの責任は親にある」と非難されるのです。私は、同じような境遇にある人がいると分かっただけで気持ちが楽になったので、悩んでいる親御さんと一緒に何とか乗り越えようという気持ちで活動しています。時間の制約や相手のニーズのために急がされて辛い思いをすることもありますが、それぞれの時間をかけて歩んでいきたいと思っています。

1) 『ブリキの勲章：非行をのりこえた45人の中学生と教師の記録』（民衆社、1979年）の著者

2) 元家庭裁判所調査官（家事事件（離婚、親権者の指定・変更等の紛争）の原因や事件致された少年が非行に至った動機、生育歴、生活環境等を調査する裁判所職員）

● 活動内容

例会という名のミーティングを毎月やっています。例会はお互いに自分の話をして共感し合う場です。事件の大小にかかわらず孤立すると死にたくなるし、無理心中なども心に浮かんでできますが、孤立を防ぐことができれば、少なくとも死にたい気持ちは救われます。そのため、機関紙『あめあがり通信』を毎月発行して、例会の様子や非行をめぐる記事、学習会・講座のお知らせなど、様々な情報を会員に伝えています。

学習会やセミナーも開いています。私自身、子どものつまずきや環境等の子どもたちに関することも、子どもをめぐる法律や制度も知りませんでしたので、学校の先生から「人生おしまい」と言われて焦ったこともありましたが、でも、他人からの情報や他人の考えとは違う現実がたくさんあるので、自分たちで勉強して知識を得て考えていくことは大事だと思います。

体験記も出版しました。よくある、昔ワルだったけど今は出世したみたいなサクセスストーリーや、少年院が出している体験記だけでは、普通の少年たちとその家族がたどる道のりを知ることができず、自分が勉強する材料にはならないと感じたからです。体験記を公募したら全国から応募があり、後ろ指を差されながら孤軍奮闘しているのに「子どもを信じて頑張る」と書かれていて、本当にすごいなと思いました。

平成15年にNPO非行克服支援センターを設立しました。親は、親の会に参加して変わることができるのですが、子ども自身の変化はまた別の問題です。そのため、子どもの支援や個別相談をタイムリーに行うことのできる体制を作りました。調査研究活動も行っています。今年7月、親・きょうだいの視点による調査研究の結果を公表しました。親の会を始めて10年くらい経った頃から、非行の子のきょうだいに問題が起きてきたので、非行が家族に与える影響を知りたいと思っていました。このことは後でまたお話しします。



● 少年非行の現状と動向

ご承知のとおり子どもの数はどんどん減っており、非行をする少年の数はその何倍も減っていると統計に表れています。ただ、あめあがりの会に寄せられる相談は年間300件くらいで、減っていません。時代につれて悩みも変わるということかなと思います。

設立当初の子どもたちは暴走族や万引きで捕まっていたましたが、今は、子どもが大人の世界から搾取されています。女の子の性の問題だけではなく、風俗のキャッチや押し買い等をさせられている男の子たちもそうです。普通の企業に入れなければどうやって稼ぐか。将来のためにはお金が必要。そんな不安が年々強くなっているように思います。

昨今の動向としては、問題行動の低年齢化と依存の問題が気になります。違法薬物もゲームでの課金もパパ活も小学生くらいから始まっています。高校生や大学生が風邪薬をオーバードーズ（過量服薬）したり、SNSでトラブルに巻き込まれたり、ネット上で投げ銭したり。目まぐるしく変わる法制度に対応して、子どもを消費する新たな仕組みができています。

● 今後の課題と抱負

子どもの数が減って非行も減っている分、非行の問題を抱えた家族はますます少数派になっていますので、親を支えられるように今後もこの会を維持していきたいと思っています。

会を始めて26年が経ち、世代が上がって行って、成人の子の例会もできました。時代によって人間関係の持ち方も、体験の内容も変わってきますし、年齢が高くなることで引きこもりや孫の行動など、それぞれの課題も出てきます。こうでなければならないという基準はありませんので、その時々で必要なことに対応できる会でありたいです。

その他、先ほどご紹介した調査研究の結果を踏まえ、きょうだい向けのリーフレットを作りたいと思っています。

● 地方公共団体へのメッセージ

非行が家族に与える影響はとても大きく、いろんな問題が家族の中に起きてくるのですが、当事者家族には自分たちだけでその問題に対応する力はありません。行政の人たちが出会った家族の中に担当外の問題がある場合、例えば、経済的な貧困の問題を扱っている部署が関わっている家庭に非行をしている子がいたり、そのきょうだいが困っていたりする状況があるならば、他の担当部署や民間の資源につなぐなどして連携して対応してほしいです。

学校もそうです。非行のある子や家族の思いを知って、「兄ちゃんみたいになるなよ」と言われただけで学校に行けなくなってしまう子もいるということに想像力を働かせてほしいです。子どもたちは、きょうだい非行をしているなどと自分から言うことは絶対にありませんし、事情を知った大人から大丈夫かと聞かれれば大丈夫と答えるものです。非行の問題が収まった後にきょうだいに問題が出てくる場合もあるので、目配りをしてほしいです。

私たちのところに相談に来る方の中には、「リーフレットを見て来ました」という方もいて、病院や警察や行政の窓口の目につきやすいところに置かせてくださっている自治体があるのかもしれませんが。非行の問題は地元では相談しづらいので、あめあがりの会のリーフレットを行政の窓口でそっと手渡していただけたら、孤立する人が減っていくのかなと思います。

※あめあがりの会の詳しい案内はホームページをご覧くださいませ。

「非行」と向き合う親たちの会 あめあがりの会ホームページ

(<http://www.shiochanman.com/hikou/index.html>)